



決算説明会資料【2026年3月期】

株式会社T B K（証券コード：7277）

2026 年 6 月 9 日

説明アジェンダ

I.業績ハイライト

II.2026年3月期 実績

III.2027年3月期 通期見通し

IV.中期経営計画 進捗報告

【登壇者】

代表取締役社長	：尾方 馨
取締役常務執行役員	：小林 正登
取締役常務執行役員	：久保 隆
経営企画ディレクター	：倉金 希佳

Ⅰ.業績ハイライト

業績ハイライト

2026年3月期実績

収益力向上

営業利益、前年比59%増の14.9億円、業績予想を上回る着地

日本：コスト上昇への対応強化（価格転嫁・内製化・経費圧縮）

タイ：金融機関のローン審査厳格化など市場の停滞感が続く中、生産性向上と収益改善対策を進め前年比増益

インド：国内需要増、北米からの生産移管による売上増加影響と自動化等の生産性向上を進め、前年比増収増益

中国：景気低迷の中、新規拡販による売上増、ライニング生産設備の自動化による省人化を実施

売上高

547 億円

前年比
+0.6%

営業利益

14.9 億円

前年比
+59.0%

経常利益

17.3 億円

前年比
+459.9%

当期利益

▲1.3 億円

前年実績
▲12.0億円

営業利益率

2.7%

前年利益率
1.7%

ROE

▲0.4%

前年実績
▲4.2%

決算トピックス

- 売上高・営業利益・経常利益は目標達成をしたものの、減損処理等の影響により、当期純利益のみ未達
- Brakes India (BI)社との資本業務提携
- 北米事業の清算手続き完了（事業再編損・為替換算調整勘定の実現による損失処理、固定資産売却益の計上）

II.2026年3月期 実績

【1】 連結損益計算書概況

単位：億円

【参考】

科目	2025年3月期		2026年3月期		増減	増減率
売上高	544.1		547.5		3.4	0.6%
営業利益	9.4	1.7%	14.9	2.7%	5.5	59.0%
経常利益	3.0	0.6%	17.3	3.2%	14.3	459.9%
当期利益	▲ 12.0	▲ 2.2%	▲ 1.3	▲ 0.2%	10.7	—

2024年3月期	
566.5	
9.0	1.6%
8.4	1.5%
3.3	0.6%

為替レート	2025年3月期		2026年3月期	変動率
タイバーツ	4.38		4.67	6.6%
インドルピー	1.81		1.71	▲ 5.5%
香港ドル	19.44		19.19	▲ 1.3%
人民元	21.04		20.81	▲ 1.1%
USドル	151.69		148.08	▲ 2.4%

2024年3月期	
4.11	
1.75	
17.97	
19.83	
140.67	

【2】 地域別 売上高・営業利益

単位：億円

【参考】

2025年3月期				2026年3月期			増減		2024年3月期		
	売上高	営業利益		売上高	営業利益		売上高	営業利益	売上高	営業利益	
日本	287.0	1.5	0.5%	315.8	5.3	1.7%	28.8	3.8	297.2	1.5	0.5%
アジア	180.1	9.4	5.2%	191.0	12.3	6.4%	10.9	2.9	192.4	10.0	5.2%
中国	33.4	▲1.0	▲3.0%	40.5	▲1.0	▲2.5%	7.1	0.0	35.1	▲0.6	▲1.7%
北米	43.4	0.1	0.2%	0.1	0.1	0.0%	▲43.3	▲0.0	41.7	▲0.3	▲0.7%
調整		▲0.6			▲1.7			▲1.1		▲1.4	
計	544.1	9.4	1.7%	547.5	14.9	2.7%	3.4	5.5	566.5	9.0	1.6%

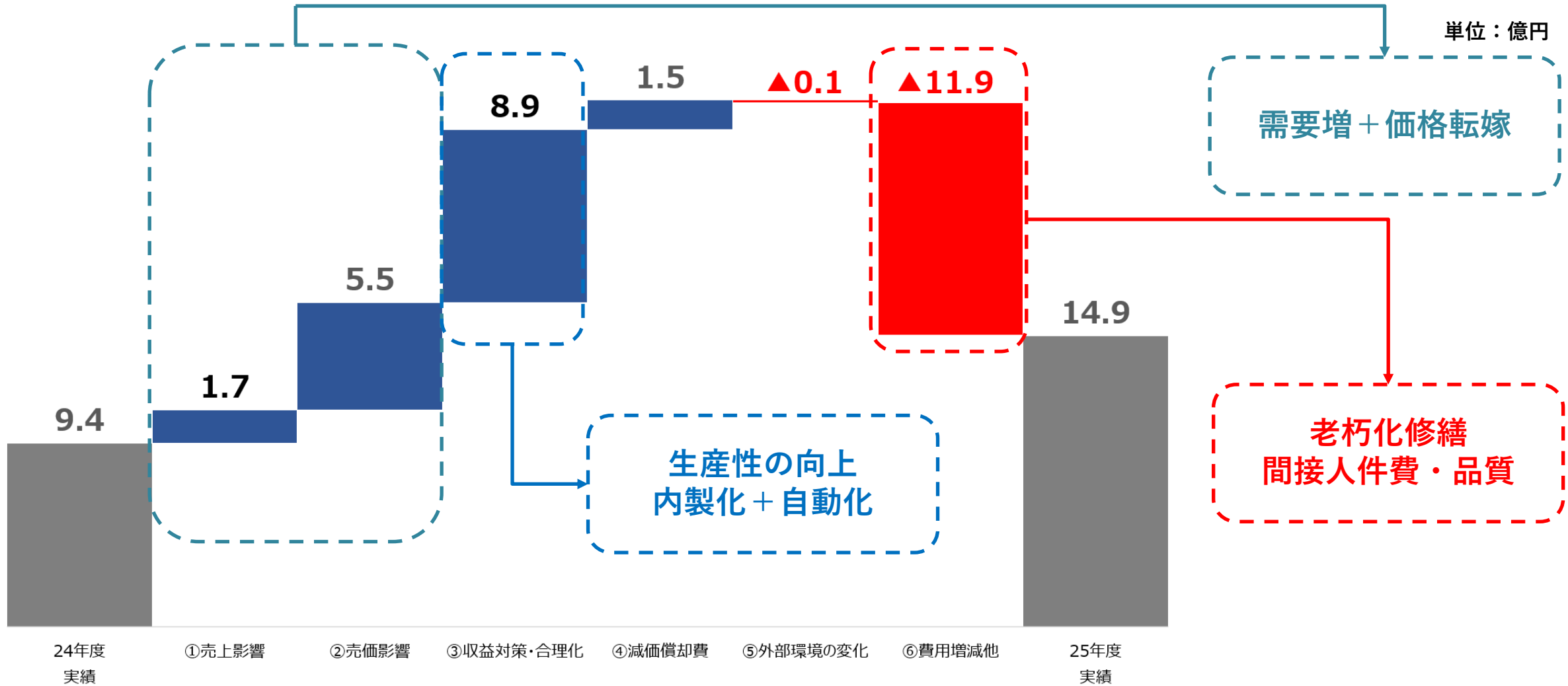
【3】製品別 売上高

単位：億円

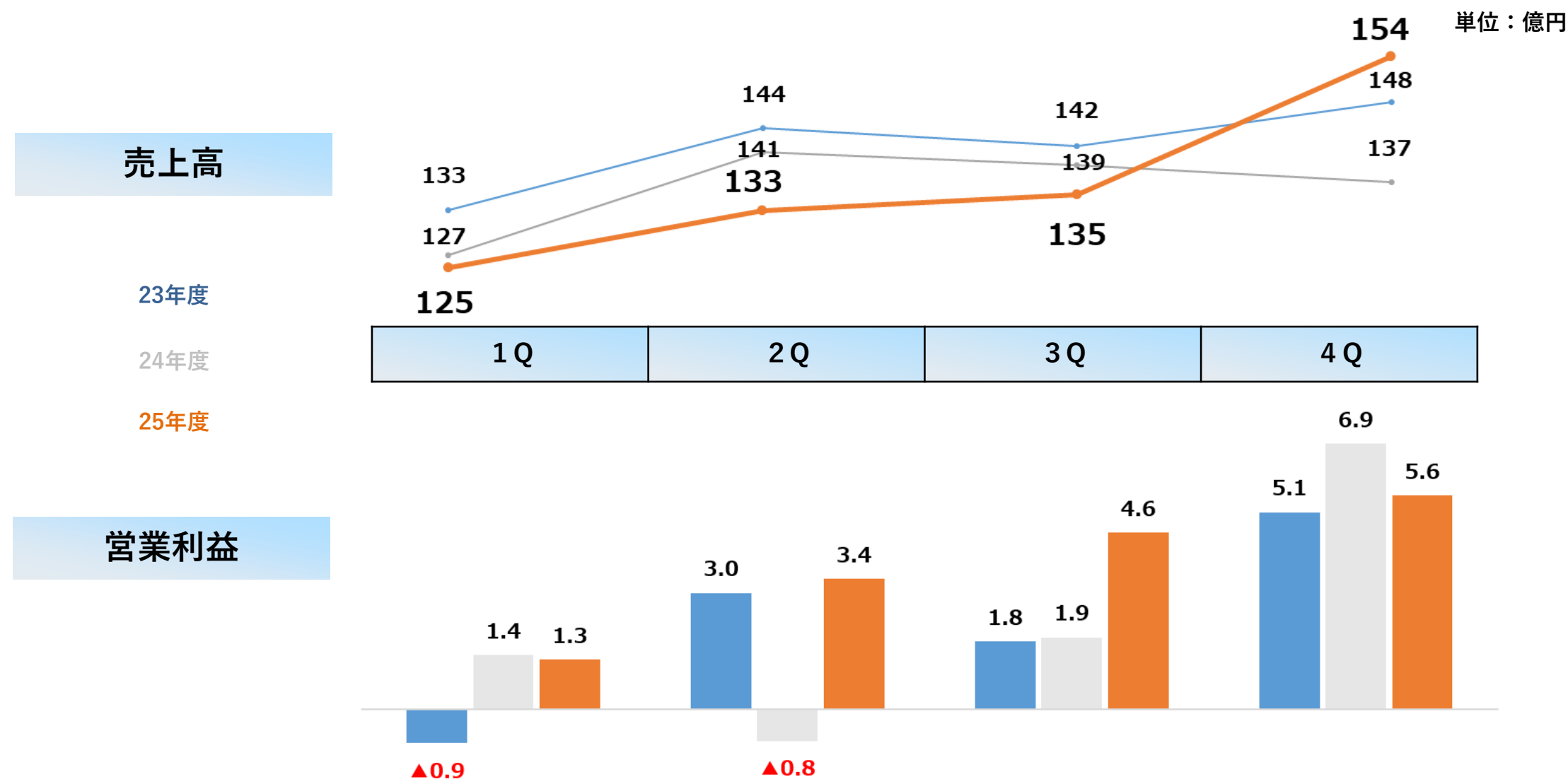
【参考】

	2025年3月期		2026年3月期		増減		2024年3月期	
	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米	日本	アジア 中国 北米
ブレーキ	136.0	52.6	150.8	57.4	14.8	4.8	148.3	65.4
ポンプ	106.6	132.4	121.5	93.9	14.9	▲38.5	101.7	124.8
エンジン部品	14.1	67.2	13.2	77.6	▲0.9	10.4	14.7	71.1
その他	30.2	4.9	30.1	2.6	▲0.1	▲2.3	32.3	8.1
小計	287.0	257.1	315.8	231.7	28.8	▲25.4	297.2	269.3
計	544.1		547.5		3.4		566.5	

【4】連結営業利益変動要因



【5】連結四半期別売上高・営業利益推移



【6】 連結キャッシュフロー計算書概況

単位：億円

科目	2025年3月期	2026年3月期	増減
営業CF	38	40	2
投資CF	▲23	▲16	7
フリーCF	15	24	9
財務CF他	▲18	5	23
現預金期末残高	41	73	32

■ 営業活動CF

税引前利益 +9.2
減価償却費 +29.2

■ 投資活動CF

有形固定資産取得 ▲26.5
有形固定資産売却 +8.2
出資金売却 +3.4

■ 財務活動CF

有利子負債 ▲3.6
増資 +11.1
配当 ▲2.2

【7】 連結貸借対照表概況

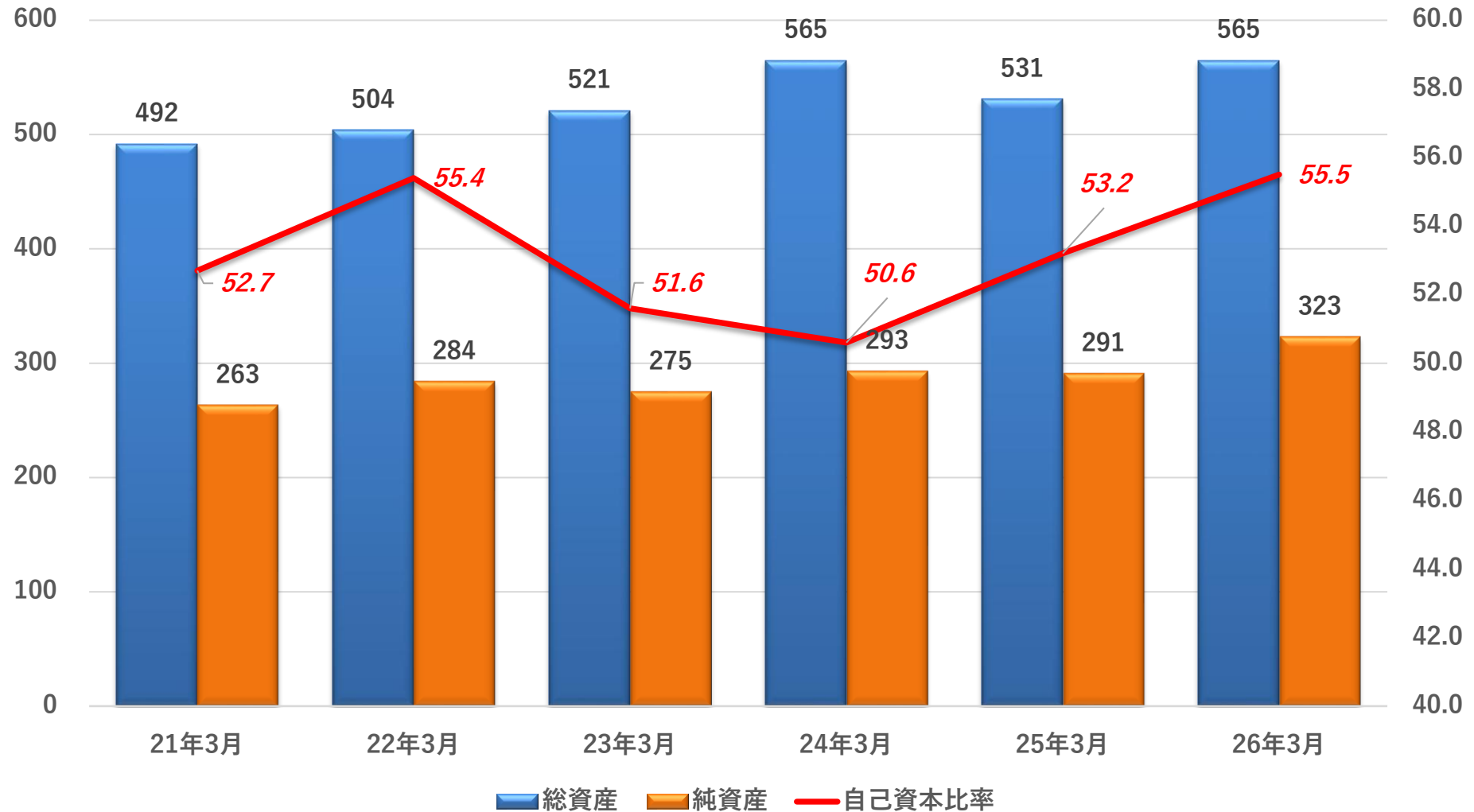
単位：億円

	前連結会計年度 【2025年3月】	当連結会計年度 【2026年3月】	増減	
流動資産	264.0	292.8	28.8	現金及び預金 +32.2 受取手形及び売掛金 ▲2.7
固定資産	267.2	272.1	4.9	投資有価証券 +3.6 関係会社出資金 ▲3.6 退職給付に係る資産 +3.4
繰延資産	-	0.2	0.2	
資産合計	531.2	565.1	33.9	株式交付費 +0.2
流動負債	177.7	179.8	2.1	電子記録債務 ▲8.6 その他 +7.3 短期借入金 +1.7
固定負債	62.4	61.4	▲1.0	
負債合計	240.1	241.2	1.1	長期借入金 ▲4.6 繰延税金負債 +6.8 その他 ▲2.1
株主資本	217.4	225.2	7.8	
その他包括利益累計	65.1	88.4	23.3	
非支配株主分	8.6	10.3	1.7	
純資産合計	291.1	323.9	32.8	資本金 +5.6 資本剰余金 +5.6 為替換算調整 +16.4
負債・純資産合計	531.2	565.1	33.9	

【8】 総資産/純資産/自己資本比率推移

単位：億円

単位：%



Ⅲ. 2027年 3月期 通期見通し

業績の見通し

2027年3月期通期見通し 抜本的な改革

中期経営計画の目標達成に向け、中国・日本拠点の生産体制の再編に着手

日本：収益対策・改善活動の継続、抜本的な改革の着手

アジア：ロボットを活用した自動化、内製化による収益力の向上（タイ）

自動車需要の多い市場環境の中、新規拡販活動・開発活動を活発化し、新規拡販に努める（インド）

中国：中国事業の収益力の向上・拠点集約の検討を進めていく

売上高

530億円

前年比
▲3.2%

営業利益

11.0億円

前年比
▲26.5%

経常利益

12.0億円

前年比
▲30.7%

当期利益

6.0億円

前年実績
▲1.3億円

営業利益率

2.1%

前年利益率
2.7%

ROE

1.9%

前年実績
▲0.4%第16次中計
2027年度目標

営業利益率

3～5%

ROE

5.0%

【1】 2027年3月期 連結業績予想

単位：億円

【参考】

科目	2026年3月期		2027年3月期		増減	増減率	2025年3月期	
売上高	547.5		530.0		▲17.5	▲3.2%	544.1	
営業利益	14.9	2.7%	11.0	2.1%	▲3.9	▲26.5%	9.4	1.7%
経常利益	17.3	3.2%	12.0	2.3%	▲5.3	▲30.7%	3.1	0.6%
当期利益	▲1.3	▲0.2%	6.0	1.1%	7.3	—	▲12.0	▲2.2%

	2026年3月期 配当実績	2027年3月期 配当予想
1株あたり 配当金	8円	8円
配当性向	—	42.4%
ROE	▲0.4%	1.9%

- 配当性向40%以上（継続的に実施）
- 27年3月期：年間配当予想8円

【2】 地域別 売上高・営業利益 業績予想

単位：億円

【参考】

2026年3月期				2027年3月期			増減		2025年3月期		
	売上高	営業利益		売上高	営業利益		売上高	営業利益	売上高	営業利益	
日本	315.8	5.3	1.7%	306.0	1.5	0.5%	▲9.8	▲3.8	287.0	1.5	0.5%
アジア	191.0	12.3	6.4%	185.0	10.0	5.4%	▲6.0	▲2.3	180.1	9.4	5.2%
中国	40.5	▲1.0	▲2.5%	39.0	▲0.5	▲1.3%	▲1.5	0.5	33.4	▲1.0	▲3.0%
北米	0.1	0.1	0.0%				▲0.1	▲0.1	43.4	0.1	0.2%
調整		▲1.7						1.7		▲0.6	
計	547.5	14.9	2.7%	530.0	11.0	2.1%	▲17.5	▲3.9	544.1	9.4	1.7%

日本：国内は、2024年問題による需要増が継続するものの、前年度比では売上の押上げ効果の減少を見込む

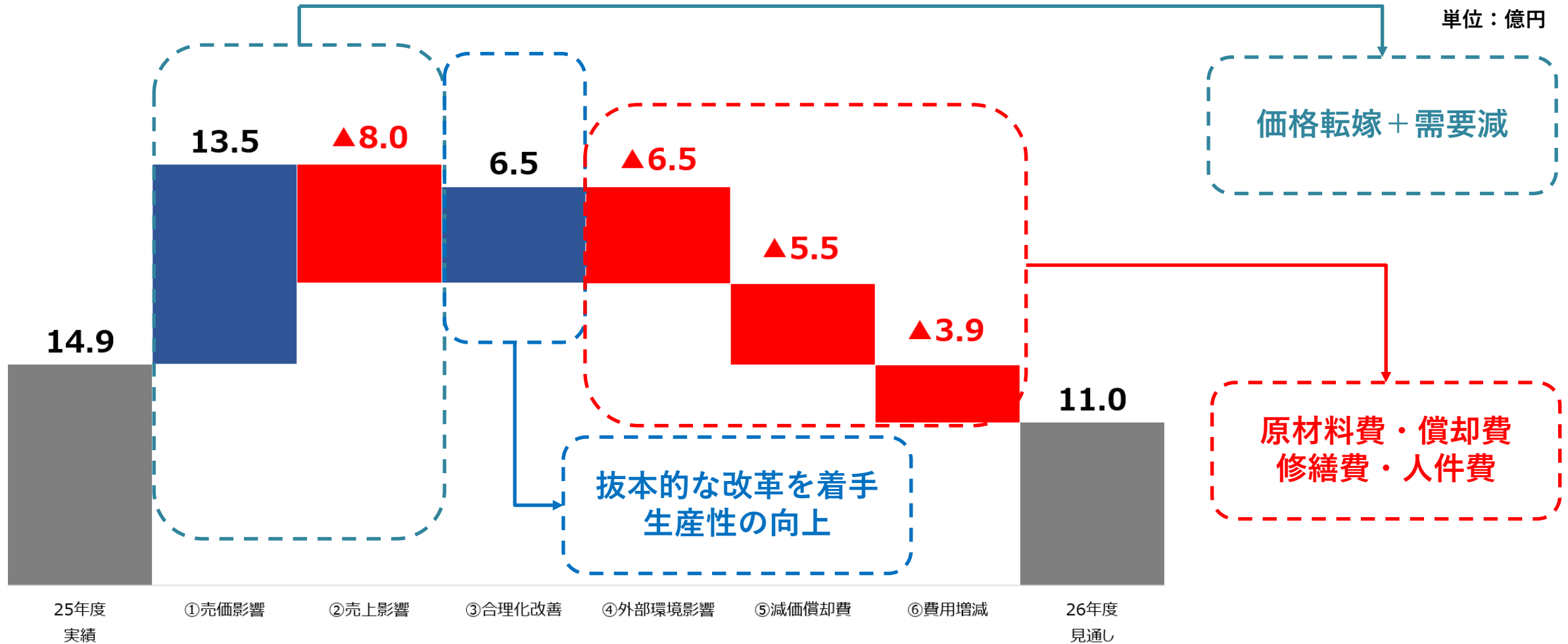
輸出は、引き続きアセアンの主力市場であるタイ・インドネシアとも低調見込

アジア：タイは、売上高は引き続き低調見込、新規拡販活動を進める。自動化等の生産性向上・内製化を進め、収益力の向上を図る

インドでは、国内需要増見込、一部顧客にてモデルチェンジ影響で需要減見込も開発活動を活発化し、新規拡販を進めカバーする

中国：景気低迷と需要停滞が継続の中、中国の税制変更の影響、原材料のコストが上昇見込であるため、改善活動・価格転嫁をしていく

【3】 連結営業利益見通し変動要因

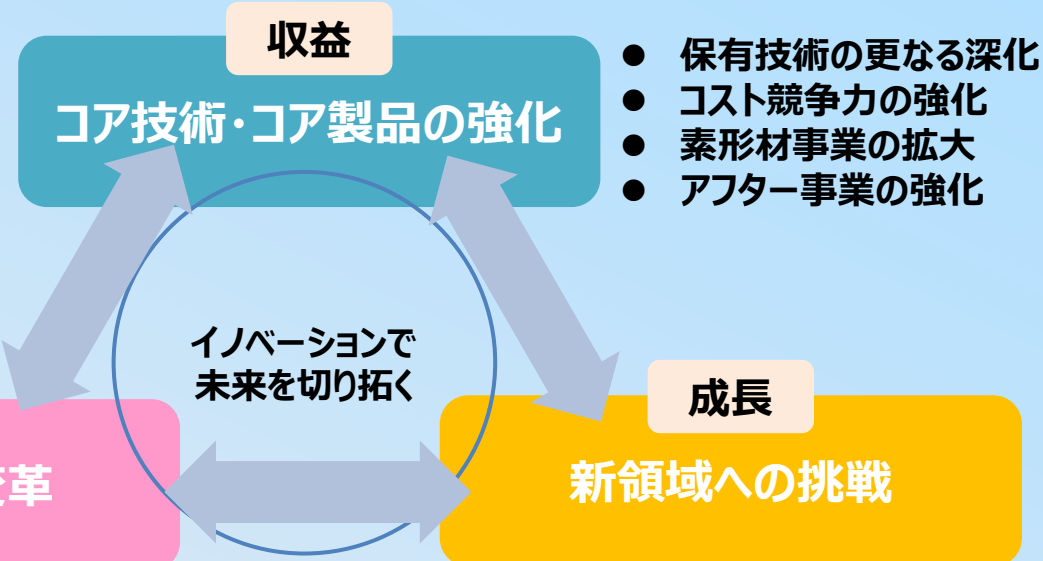


IV. 中期経営計画 進捗報告

中期経営計画（2025-2027年度） 基本方針

We Are One TBK

- 私たちは、グループ一丸となって、常に変化し続ける組織となり、企業価値を創造し、人々を笑顔にしていきます
- みんなのありたいをカタチにするために、イノベーションで未来を切り拓いていきます



3つの基本方針を支える礎として

ESG経営の推進

E : 環境戦略
S : 社会戦略
G : ガバナンス戦略

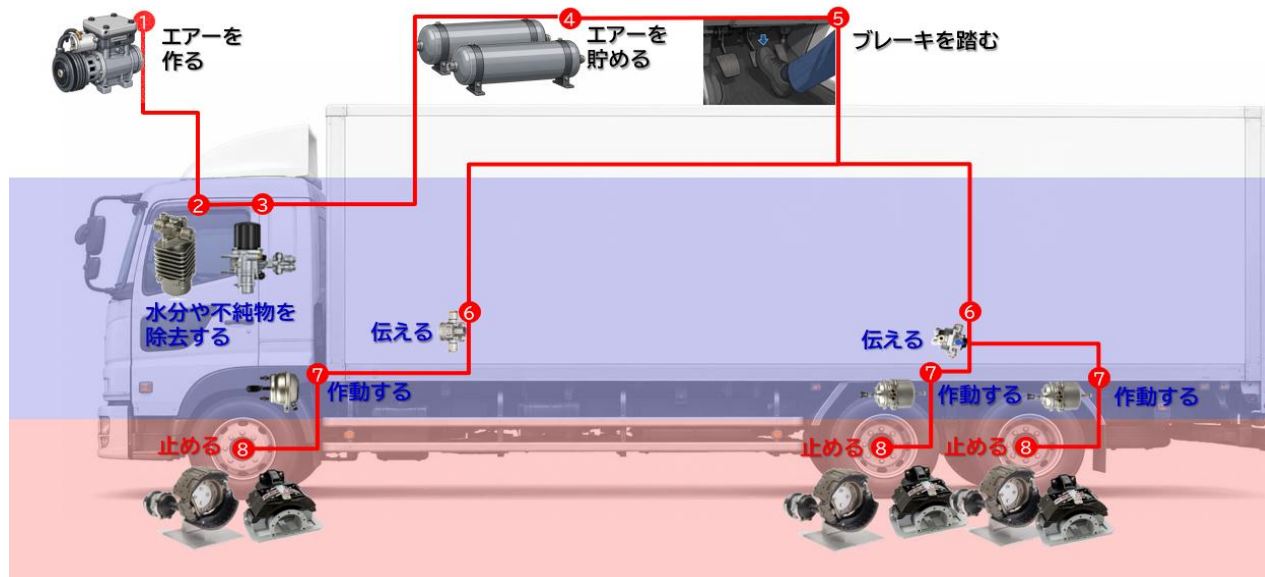
- CO2排出量の削減
- 人的資本経営の強化
- コーポレートガバナンスの更なる強化

トピックス①

新領域への挑戦

Brakes India (BI)社との資本業務提携

- ・ グローバルアライアンスによる技術力の相互補完
- ・ 製品の相互販売、調達網・生産拠点の相互活用による高付加価値、シナジー効果の創出



: Brakes India

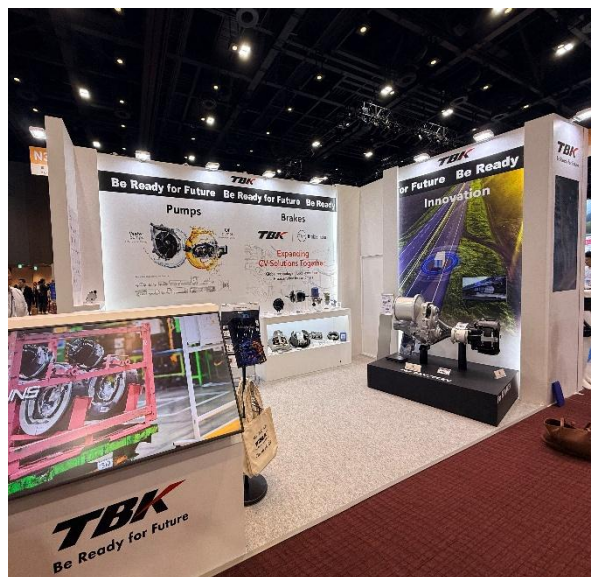
: TBK

トピックス②

新領域への挑戦

グローバルアライアンスの強化
電動化・自動化製品の開発

- ・ Brakes India社の製品ポートフォリオの活用によるラインナップの充実
- ・ e-Axle + EDB をコンセプトモデルにJSAE展示会*にて発表



* JSAE展示会「人とくるまのテクノロジー展2026 YOKOHAMA」 出展

トピックス③

新領域への挑戦

鋳物事業（アルミ事業）の強化

大型の設備導入*で、大型アルミ部品市場の拡大を狙う
（タイ）



*アルミダイキャスト1,650トン

「新たな価値創出」をテーマに新設備を導入
ビジネス拡大を狙う（日本）

GDC*導入/量産開始



*グラビティダイキャスト

ADC135トン設備導入



トピックス④

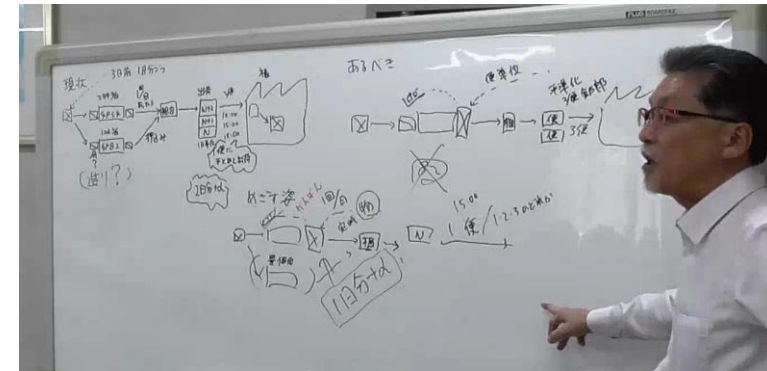
コア技術・コア製品の強化

改善活動の更なる深化

2年前からスタートした
「NPS活動*」による無駄を徹底排除する改善活動



* トヨタ生産方式起源とする改善活動



トピックス⑤

コア技術・コア製品の強化

DX推進

製造・品質・保全・セキュリティの各領域でデジタル化を加速
持続可能な成長と顧客価値の最大化を目指す



トピックス⑥

コア技術・コア製品の強化

自動化による生産性向上への取り組み



タイ拠点の自動化設備

A D C粗材加工後のトリミング自動化設備を導入
省人化と品質安定化を進める（タイ）

ライニング生産設備の研削工程から品番印字工程までの
一貫生産体制および搬送の自動化を実現（中国）

トピックス⑦

事業基盤の変革

生産体制の再編

生産体制を再構築して収益力を強化

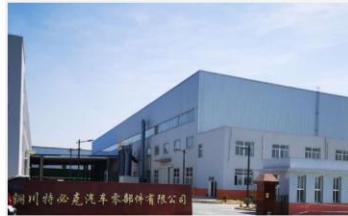
中国

前年度までの取り組み

- 自動化・省人化による生産性向上
- 中国国内3拠点での営業・開発・技術の連携
- 日本本社開発部門との連携強化

今年度以降の抜本的な改革

BCP対応・中国拠点の将来の稼働状況を見て、
東莞工場・長春工場・銅川工場のライニング生産について統
廃合、生産拠点移管含めて検討



生産体制の再編を着手していく

日本

前年度までの取り組み

- 工場レイアウト見直しによる生産設備ラインの統廃合
- 自動化・省人化による生産性向上
- 社内横断的な改善活動の実施

今年度以降の抜本的な改革

- 鋳物部品の生産を福島地区へ集約検討
- 工場のダウンサイジングの検討

将来的な国内工場の構想

福島工場：加工・組立を集約

鶴岡工場：アルミ部品（ADC/GDC）の生産・型事業



トピックス⑧

ESG経営の推進

「DBJ（日本政策投資銀行）環境格付」

今年度最高ランクのA評価を初取得（昨年度Bランク）



人的資本の強化

26年4月より組織再編・人事制度の改革に着手



本資料ご説明にあたっての注意事項

- 本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは、現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- 実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。